



八重山圏域インバウンド受入れを考える 地域円卓会議

八重山圏域のインバウンド増加/受入れに伴う、
地域課題の確認と共有

実施報告書

日 時： 2024年2月6日（火）14:00-16:40（受付開始13:30-）
場 所： 大濱信泉記念館 多目的ホール（沖縄県石垣市登野城 2-70）
＋オンライン配信（zoom）
主 催： 与那国町
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】八重山圏域インバウンド受入れを考える地域円卓会議



- 日 時：2024年2月6日（火）14:00-16:40
- 主 催：与那国町
- 場 所：大濱信泉記念館 多目的ホール
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：14名（行政、自治会等地域組織、他）

論点提供

田島 忠幸（与那国町 企画財政課 課長）

八重山圏域のインバウンド増加/受入れに伴う、地域課題の確認と共有

沖縄県は、昨年5月の「新型コロナウイルス5類移行」に伴い、観光振興を拡大するために国内外旅行者の受入れを実施しており入域観光客数は、令和5年6月は66万3,400人、7月は77万8,800人、8月は、72万8,600人、9月は71万100人、10月は78万8,400人、11月は68万8,000人で、いずれも対前年比を大きく上回り、観光客数の増加がみられる（特に増加が顕著となっているのはインバウンドの受入れである。）

一方、八重山離島地域では脆弱な受入れ基盤に起因する多様な地域課題が発生しており、今後の観光振興、特にインバウンドの受入れ促進を展開する上で、喫緊な解決が求められる課題がある。

本円卓会議では、主要な課題についての共有及び確認を行うことを目的とする。

センターメンバー



田島 忠幸
与那国町
企画財政課
課長



通事 太郎
竹富町
自然観光課
課長



東浜 安邦
与那国町祖納
自治公民館連
絡協議会 会長



比嘉 丞
沖縄県
八重山事務所
総務課 課長



玉元 宏一朗
沖縄県知事公室
特命推進課
地域外交室 室長



金子 真也
一般社団法人
八重山ビジター
ズビューロー

八重山圏域インバウンド 受入れを考える 地域円卓会議

地域の困りにこそ社会課題は未だ未だある

八重山圏域のインバウンド
増加/受入に伴う
地域課題の確認と共有

主催 与那国町

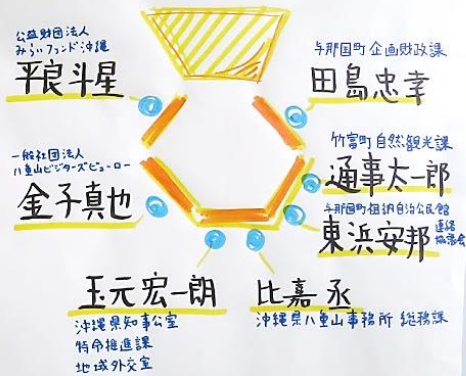
協力 公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなか研究所わくわく

2024.2.6 (火)

14:00-16:40

◎大瀨信泉記念館・多目的ホール

①



論点提供

田島忠幸 さん
与那国町役場 企画財政課

地域活力を強化する政策

わ3次総合計画

豊かな地域資源を活かした活気ある与那国

与那国町の概要

国境の島

与那国町 ま・ひと・じと創生総合戦略

与那国・自立へのビジョン

日本最西端

本島から南西50km
石垣島から127km

石垣島と台湾との中間
1111km

人口 1,699人
男 959人
女 740人

亜熱帯気候
平均24.7度

空路 琉球EISコミュニティー

航路 フェリー・よなくに

観光・サービス産業
の振興

重点施策

産業
わ1次 15.6%
わ2次 21.2%
わ3次 63.2%

人材確保
住む場所

↓
地理的特性を活かし、国際交流
を通じた新しい人の流れをつくり、
豊かな地域資源をより効果的に
活用するため地域と地域が
連携強化した取組

インバウンド強化

日本最西端 結接点として

観光客 R.1 40,615人 → R.5 43,666人

花蓮市
との高速船
の検討

クルーズ船 100人外国人
タビ外に与那国へ

目標 50,000人

地域の活性化へ

メニューが少なく
商工会との
連携

どう楽しめて
もらうか
体験プログラム

お土産 宿泊
観光 移動

ローケーション
グランピング
部屋数足りない
団体を受入れられ
ない
30人単位

77部屋 ホテル
休業-再開
お休みなし
1日帰りに
帰る
バスガリ対応

インバウンド受入れ - 地域課題 -

- ③ 宿泊施設の不足
- 飲食提供施設の不足
- 観光消費増額に向けた対策
- 79言語対応
- 2次交通対策
- オリーブリズム対策
- 診療所施設・設備の充実化
- 緊急搬送(感染症含む)の実施計画 (体制の確立)
- 防疫実行計画

何かあったら
船からお知らせ

おりた後に
発症したとき
どうするか

通事太一郎

竹富町 自然観光課 課長

2020 調査 0.5% インバウンド

年間100万人 まだ少ない

台湾クルーズ船 - 石垣・日帰り

複数の島がある中での対応

コロナでおちこみ(受入れできなかった)

今の弱い

たい在型観光へのメリカえ

島の内での対応できない コロナ

フェリー-と使って車で搬送の計画も

→石垣島へ

インバウンド受入は欠かせないもの

認識のメリカえ
体制の整備

130の宿泊施設
民宿(90以上)

数を増やす
消費単価の向上

H17: 100万人に達

日帰り
周遊が
8割

社会的ニキョウ
受けやすい

観光客減たり
質がかわって
そこからまた
関係性つくって

島でできること
に限界あること
の理解

事前の情報
提供も大事

東浜安邦

祖納自治公民館連絡協議会会長

5つの公民館

国内 > 観光客
国外

住む場所 - 住宅不足

宿泊場所の不足

石垣港 - 防疫の体制

沖にいはく → 小さな船で
港にクルーズは 島へ
入れない

けんせいの人が 島にいない

CIQ けんせい/入かん/せいかん

コロナ以前 → けんせいの人の
1万人でできた

ひこうき
ジャンプスター - 台湾 → 与那国

非けんえきこう → 体制をどうつくるか

住民感情として

コロナもってくるんじゃないか...

今社会実験中

CIQ

税関 Customs

出入国管理 Immigration

検疫 Quarantine

比嘉丞 さん (沖縄県八重山事務所 課長)

2009 山重山事務所へ (支庁から)

急遽搬送

外国の方への対応 (まだない)

へりにのせるキザイ

国内観光客の対応 (ある)

診療所

海保

中長期の滞在 → 病気になるリスク

島の状況の理解 (観光客)

ドクターがみだる

キザイ 体制

玉元宏一朗 さん

(5)

沖縄県知事公室特命推進課 地域外交室 室長

台湾 - 身近な

県として観光もあげていこう

離島地域 (県) 5%

人口10%といる

かなりの負荷

持続可能性

数だけ増やせばよわけてはない

自分たちのキザイ → 観光のキザイ

地域外交

ひとりひとりの関係づくり

与那国こそ台湾という地域との

交流をすすめる

対話の場 調整役

県内
サワった

去年7月キザイ CIQ 県の担当明確化

金子真也 さん

八重山センターズビロー

与那国町観光パンフレット

<3ヶ国語>

施設 → 日本語のみ対応

外貨両替キなし

最西端 → 日本人知らない人ない

台湾へのアプローチ → 花蓮市

= サブセッション =



具体的課題
でた

コロナの対策

どうやってやるか...

竹富 → 加工所

たりない

医療のかくほ

日帰り → お金おちない

ホテルたりない

工事の事業者

搬送

消防団 → 海保

そびのキザイ

ホテルネットワークあると

そこが最大容量と

なってしまう

コロナ前
サイビング

↓

コロナ後
自然と〜

台湾
竹富 石垣

の周遊船

なであって
おもしろい

離島版

CIQ

国との

入ったあと

話しあう場が
ほしい

↓
今日とまかた

ハヤより人手が
足りてない

働く人が
任む場がない

飲食店

⇒ あいてない

空き家
リフォームすれば
住めるところある

台湾との交流
のし掛け

日本
としてみかも

アジア-太平洋
地域の平和構築
相互発展に貢献

芸能
(伝統/地域)

与那国
独自

安全保障の
最前線

人と住む場所 **住**

ハッスあること
大事

八重山圏域
として

対話の場
も

外国との交益交流

観光・文化・経済
の面をうたして

医療

民間の力を
かきこむ
ことも

もつかる資産
ちがう

集約して

島民
おバ
だけは
足りない

行政の
バックアップも

投資を
うながす

回島は

防疫・医療・搬送など
CIQ 別の課題として認識
話し合いの場も継続

任・部屋敷など
課題はあふだし
国産性も

トアップダウン
の思ひきりも
必要か

課題

島・地域のくらしを継続するために
コンセプトを出していく
対話の場をコーディネート
八重山-与那国-県の戦略の合意が必要

コロナ前後で
観光客の質
変化、
知見も

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

➤ 課題の顕在化と優先順位、議論の場

インバウンド受け入れに対して、小規模離島の特性も踏まえ課題をリストアップすること重要、2次交通・宿泊・多言語対応・医療体制・検疫から搬送体制・島のキャパシティ等それぞれ議論を行い、優先順位をつけて解決して行きたい。その議論は、与那国・八重山・沖縄県、テーマによっては国や企業も含めた座組を持ち、その課題を議論する場を持つこと。課題を様々なステークホルダーで共有していくべき。課題が共有されリスクが明確になれば民間投資も引き出せるというイメージを持ちたい。

➤ インバウンド受入れに関する来島者とのコミュニケーション

コロナ禍を経験し、人の移動には「そこに行く理由」を持つ意識が旅行者に芽生えている。これから島を訪れる方々に対して滞在時のインフラや注意点も伝え、相互に理解し合える関係性を構築していくべき。

■参加者によるサブセッション

八重山圏域のインバウンド増加/受入れに伴う、 地域課題の確認と共有

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

具体的な課題が明らかに
地域外交に期待
コロナの対策が PR できていない
医療の担保しないと経済が止まる
竹富町は一次加工所が不足
観光等、日帰りが多い、金が落ちない
バランスのけねん、黒島、波照間
与那国一日当たり人数出している
これを踏まえてのインバウンド
ホテル足りない、工事業者が長期滞在
ボトルネックの算出が必要
西表パイプ→加工所があれば
飲食店が開いていないケースあり

②

- ・ インバウンドの方がすること
ダイビング
コロナ後は歩き、自転車
地域を見たり感じたりする
自然、ふんいき
- ・ 台湾ー竹富ー石垣の周遊船があれば
観光、物流、人流がうまれる

③

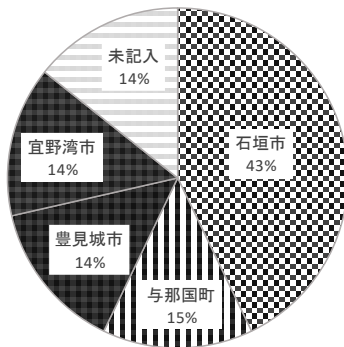
コロナはんそうについて

八重山圏域インバウンド受入れを考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

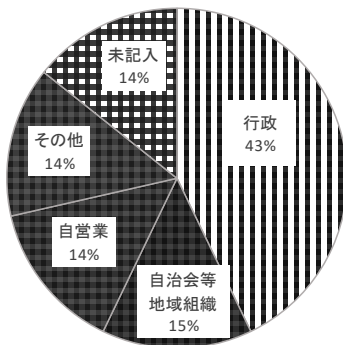
◆概要

- ・日時：2024年2月6日（火）14:00-16:40
- ・場所：大濱信泉記念館 多目的ホール
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：14名（行政、自治会等地域組織、他）
(アンケート回収7名、回収率50%)

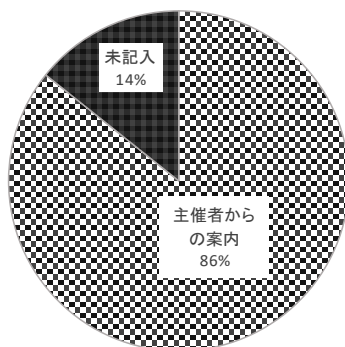
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.4 (5点中)

満足度	人数
5. 満足	4名
4. 概ね満足	2名
3. 普通	1名
2. あまり満足していない	0名
1. 不満足	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 円卓会議という方式で課題の確認と共有についてより深く議論できていた
- ・ 課題の共有と解決に向けての方向性が示された。
- ・ 円卓会議でいろいろな立場な方のお話しがきけました
- ・ 幅広い分野の興味深い議論となった

(4. 概ね満足)

- ・ 情報の共有ができ問題の共有ができたこと
- ・ 観光の分野ではなく、保健分野からの参加でしたので、ひとつひとつの話題が知らないことばかりで新鮮でした。インバウンドに関して検疫の方の参加はありませんでしたが、検疫港の問題について町と検疫所で共通認識が図られているようでその点はよかったです。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 地域課題として、緊急搬送体制、防疫体制について挙げられていたことが印象的であった。町、保健所のみで体制整備できるものではなく、医療機関、CIQ（特に検疫）海上保安、消防（団）との連携、協力が不可欠な部分であると思われる。
- ・ セッション1→サブセッション→セッション2という取り組みかた
各市町でできること、圏域でできること

- ・ 沖縄県知事公室地域外交室が、C2Q、海保を含めた具体的な防疫計画を進める調整窓口として機能する役目
- ・ 働き手の住む家をリフォームして準備していく

7. 会議運営についての意見、感想

- ・ このような円卓会議というものはあまり経験がなかったのでとてもよい会議に参加させて頂きありがとうございます。別件ありで途中で抜けてしまう申し訳ありません。
- ・ 離島の不便さをしっかり PR していく
- ・ まとめがわかりやすかったです。模造紙がキレイにまとめていただいていたのですが、web では見えにくかったかもしれないのもったいなく感じました。
- ・ オンライン併催での運営前提であれば、音声等の環境は整えた方がよいのでは。
(音声が重なることをお伝えしたのに、その場で「そのままで行きます」と言われても・・・)
田島課長が話されている途中でコメント入るため、どなたがしゃべっているのか(田島課長?事務局?)わかりにくい。オンライン参加よりも現場参加が妥当だと感じました。

(写真) 会場の様子



具体的に浮島が明かした
地域外交の期待

この対岸から見て
いかに医療の担保が
経済を止める。

↑高田は一次加工が不足
船主も、回りが多い。金儲け
バリエーション。黒島、北野
今期は一日も人数出ない
これは踏切のインバウンド
本邦も同じ。工事業者も長期滞在
持たざるの輸出が必要

・インバウンドの方がいいこと
~~コロナ前~~ダイビング

後は歩き、自転車
地域を良く感じたりする。
自然、ふんいき

・台湾-~~西~~竹富-石垣
の同遊船があれば
観光、物流、人流
がうまくなる

西表バレー→加工が木材
貯金庫が除いていはいくつ-2割

この話はさうについて